

# 先天性心疾患以外のこと

## 学校検診で発見される不整脈

学校検診で、不整脈が発見されることがあります。二次検診や精密検査の結果、不整脈と診断されたら、学校では、どのような不整脈なのか、原因となる疾患があるのかどうか、不整脈発作が起こる可能性があるのかどうかについて、知っておく必要があります。学校生活の過ごし方については、ご家族、専門医や学校医と連絡をとり検討していきましょう。また、突然に発見された不整脈によって、お子さんやご家族が不安になることがあります。体と併せて、心のケアもたいせつになります。

## 川崎病後遺症

川崎病は、4歳以下の乳幼児が罹ることの多い原因不明の病気です。発熱、発疹、目の充血、唇が赤くなる、手のひらや足の腫れ、首のリンパ節が腫れるなどの症状がみられますが、一過性で治るものです。しかし、川崎病にかかると、心臓に栄養を与えている血管（冠動脈）の内部にこぶ（冠動脈瘤）ができることがあります。そうすると血液が流れにくくなり、心臓の筋肉のはたらきに影響がでてきます。このことを冠動脈後遺症といいます。

冠動脈の変化は胸部レントゲンや超音波検査などで検査できるもので、定期的な経過観察が行なわれています。冠動脈に変化がなければ、運動制限はまったく必要ありません。冠動脈瘤として残っているお子さんは、その程度により内服の必要や運動制限がされている場合もありますので学校生活管理指導表に基づいてご確認ください。

